

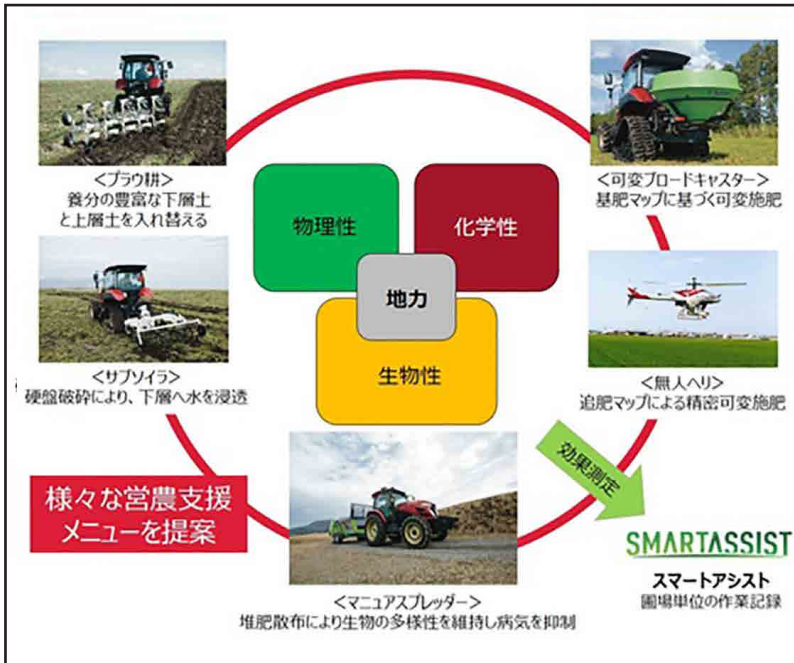
IoT、AI最先端農業への挑戦

可変ブロードキャスターでGPS基肥散布

～ ドローンのリモートセンシングデータを活用して田んぼを均一化 ～

生産者通信

NPO法人
米マーケティングセンター
定価 100円(送料込)



国際競争力強化、経営規模の拡大、省力化に取組むための最先端技術を活用した「田んぼの見える化」の実証実験の2年目を迎える

ます。昨年はお盆過ぎから、低温・長雨の影響で、実証をするには、昨年よりも今年、リモートセンシングで、田

ます。昨年はお盆過ぎから、低温・長雨の影響で、実証をするには、昨年よりも今年、リモートセンシングで、田

施肥設計の考え方 (1)

NDVI (葉色) と 植被率の計測により窒素 (N) 吸収量と地力窒素量 (の大小) が推定でき、施肥設計が可能です。

品質を維持しつつ収量を最大化する

「粗数の適正化」

窒素(N)吸収量 = (葉色 × 茎数 × 草丈) の制御

地力N (推定) = $\boxed{\text{N吸収量}} - \text{基肥N} - \text{追肥N}$

基肥量設計: N吸収量のバラッキに応じて施肥量決定
主に収量 (茎数) に寄与

追肥量設計: 天候状態、生育バラッキに応じて施肥量決定
主に品質 (タンパク含有量) に寄与

視察希望者は、事前にお申し込み下さい。雨天の場合は中止する場合があります。その際は朝7時以降、その時点で決定し連

視察希望者は、事前にお申し込み下さい。雨天の場合は中止する場合があります。その際は朝7時以降、その時点で決定し連

施肥量 上限値 20kg
標準値 18~20kg/10a
下限値 15kg

窒素吸収量 (推定地力窒素)

平均 0.663
+10% 0.729
-10% 0.597

<基本的な考え方>
① 2017年度幼穂形成期のNDVIの平均値をお客様の通常の基肥標準値とする
② バラッキが (10%) 以上ある場合に、施肥量上限値、下限値を設定し、バラッキに応じた施肥量を割り振る。

絡を致します。

【日時】 4月16日(月) 8:30

【集合場所】 岩渕さん山田錦圃場



● 視察希望者の方は・・・エコ・ライス新潟まで TEL 0258-66-0070

(土)(日)は豊永ケイタイまで TEL 090-6458-5535

※ 雨天の場合は中止する場合があります。当日7:30に決定し、連絡いたします。